

第5章 公共交通のあり方（現状と課題のまとめ）

（1）コンパクトなまちを繋ぐ、利便性・効率性の高い、持続可能な交通ネットワークの形成

持続可能な社会の形成に資する交通環境を推進していくためには、自家用車に頼らなくても移動のできる利便性の高い交通ネットワークを形成し、自家用車からの転換を推進していく必要があります。

また、コンパクトなまちづくりの推進に向け、中心市街地、周辺部などの居住者及び来訪者の移動ニーズに対応した公共交通の利便性（サービス水準）の向上を図りながら、将来的にも持続可能な効率性の高い交通体系への転換を促進する必要があります。

そのためには、既存公共交通のサービス水準向上や移動ニーズに見合った運行便数への最適化、主要な交通結節点の連携強化、交通不便地対策、多様化・個別化する移動ニーズに対応した交通サービスの導入などの施策を、利用者と交通事業者の双方の目線から進める必要があります。

また、新型コロナウイルス感染症の影響により大きく悪化した公共交通の経営環境の好転を図り、公共交通の持続性を高めていくためには、市民・交通事業者・行政等が一体となり、公共交通の利用促進を図ることが不可欠です。

さらには、ICTの進展等による利便性や効率性向上の取組を推進し、多様な交通サービスが一体となった交通ネットワークの形成を図ることが必要です。

○ コンパクトなまちを繋ぐ交通ネットワーク



(2) 安全・快適で、人と環境にやさしい交通環境の整備

本市の現状や将来的な人口動向を鑑みると、子どもから高齢者まで、年齢、障がいの有無等にかかわらず、すべての人々の社会参画を促すことが重要であり、そのためには、安全・快適に移動できる交通環境の整備を一層推進していく必要があります。

また、交通施設のバリアフリー化を推進し、公共交通を快適に利用できる環境を創出することも必要です。

加えて、ゼロカーボンシティかごしまの実現に向けて、環境に配慮した車両の導入や、交通渋滞対策をさらに推進するとともに、過度な自家用車の利用を抑制し、公共交通や自転車への利用転換を誘導するなど、有効なハード・ソフト施策の一体的な実施をさらに推進する必要があります。

○ 車中心から人中心の交通環境



(3) 多様な公共交通を活かした多彩なまちづくりの推進

本市には、路面電車やフェリー、観光列車、観光周遊バスなど特色ある公共交通が存在し、市内外の観光地を連絡するほか、それぞれが観光資源となっています。この魅力を最大限に活用した交通環境を整備していくことが必要です。

また、中心市街地のにぎわいを創出し活性化を図るため、公共交通施策と連携したまちづくりを推進する必要があります。

さらに、新幹線、飛行機、フェリー等の広域交通と域内交通の良好なネットワークを構築する必要があります。

○ 中心市街地のにぎわい創出による活性化



第1章

第2章

第3章

第4章

第5章

第6章

第7章

第8章

参考

資料編